

1 調査名称：新たな路面公共交通システム導入に係る交通影響検討業務委託

2 調査主体：名古屋市

3 調査圏域：名古屋市東区、西区、中村区、中村区

4 調査期間：平成30年度

5 調査概要：

本調査は、名古屋市が導入を検討する新たな路面公共交通システムについて、現状の交通実態を踏まえて、自動車交通への影響検証及び対応策の検討を行うものである。

## I 調査概要

1 調査名称：新たな路面公共交通システム導入に係る交通影響検討業務委託

### 2 報告書目次

#### 第1章 業務概要

- 1.1 業務目的
- 1.2 業務概要
- 1.3 業務内容

#### 第2章 交通実態調査

- 2.1 調査概要
- 2.2 調査準備
- 2.3 調査結果

#### 第3章 交通シミュレーション

- 3.1 シミュレーションに使用したソフトウェア
- 3.2 前提条件の整理
- 3.3 シミュレーションの現況再現について
- 3.4 交通影響の検証
- 3.5 まとめ

3 調査体制：本調査は委員会、幹事会、事務局等の設置なし

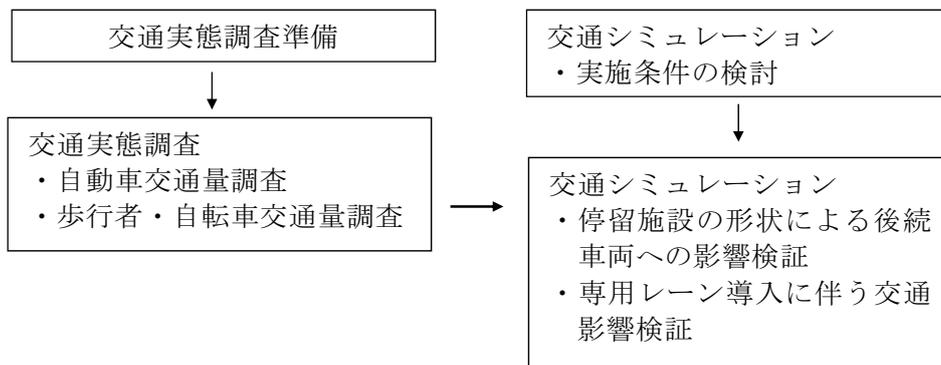
4 委員会名簿等：該当なし

## II 調査成果

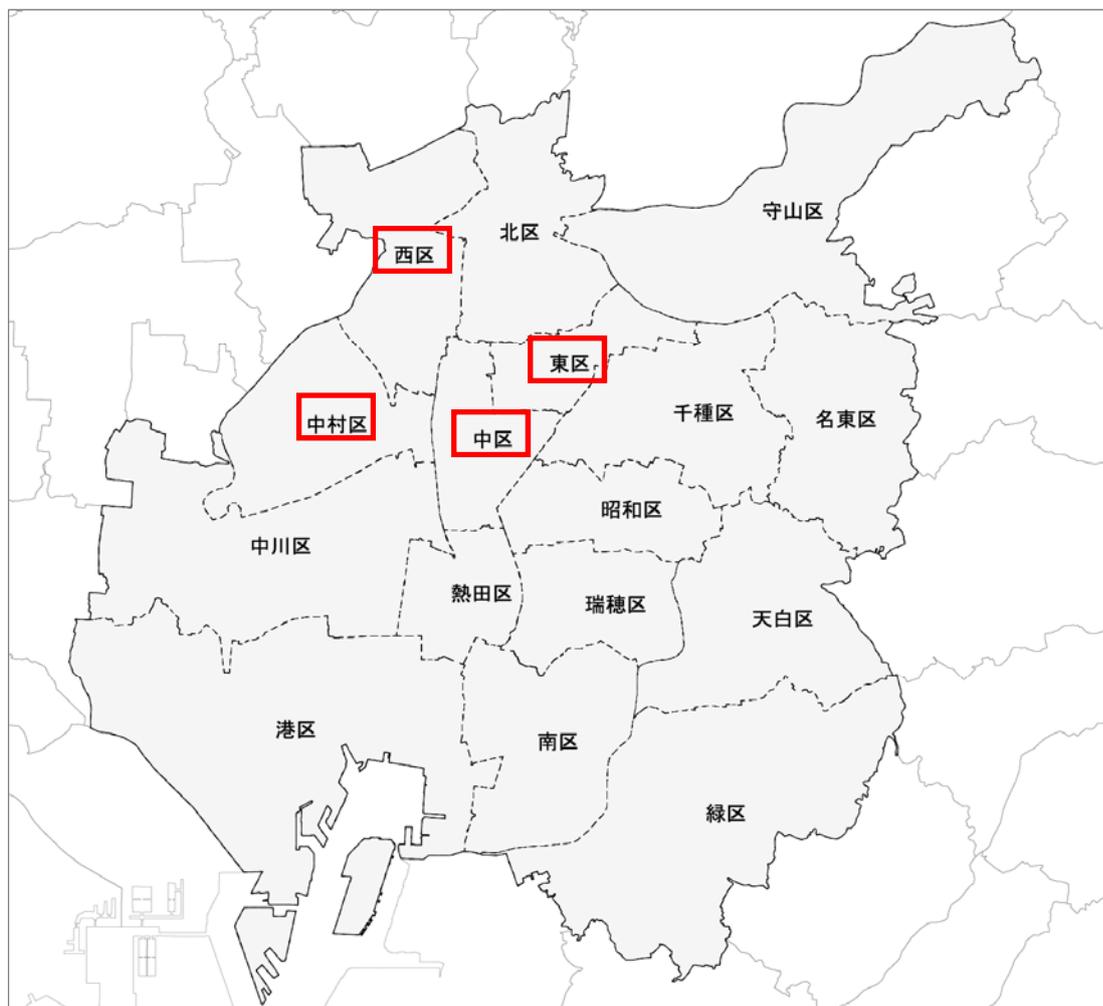
### 1 調査目的

名古屋市が導入を検討する新たな路面公共交通システムについて、平成 29 年 3 月に取りまとめた「新たな路面公共交通システムの導入に係る基本的な考え方」及び平成 31 年 1 月に取りまとめた「新たな路面公共交通システムの実現をめざして～S R T 構想～」に基づき、自動車交通への影響検証及び対応策の検討を行う。

### 2 調査フロー



### 3 調査圏域図



## 4 調査成果

### ◆交通実態調査

#### ○調査概要

交通シミュレーション実施に向けた基礎データを得るため実態調査の実施。

- ・主要交差点（3箇所）における方向別自動車交通量、歩行者・自転車交通量（7:00～19:00）
- ・単路部（4断面）における車線別断面交通量の調査（17:00～19:00）

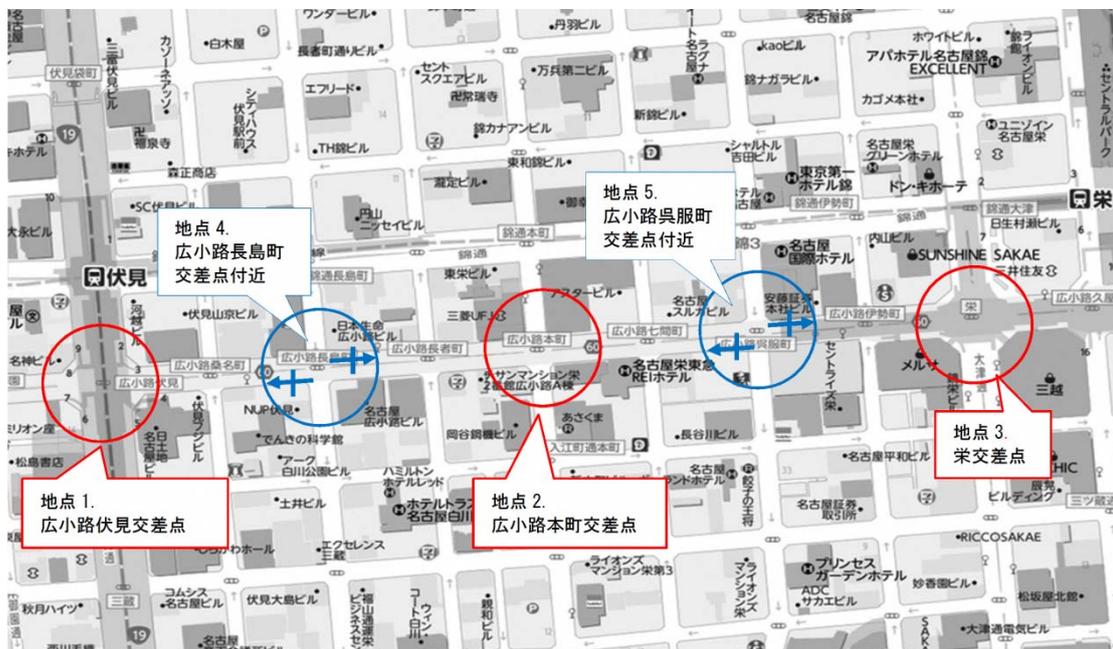
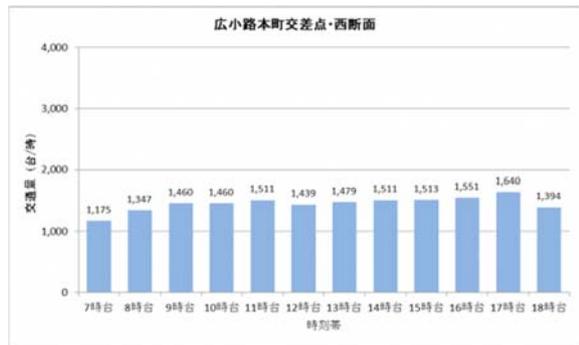
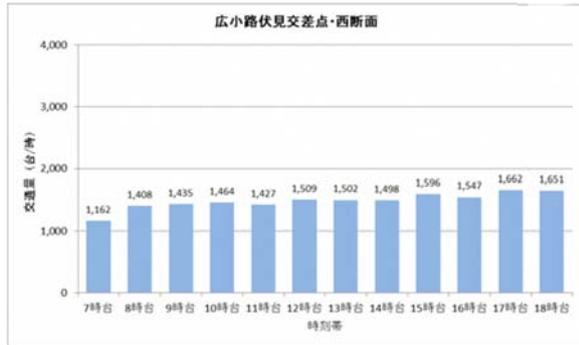


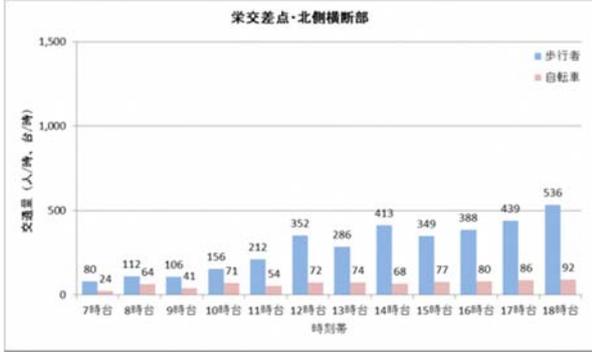
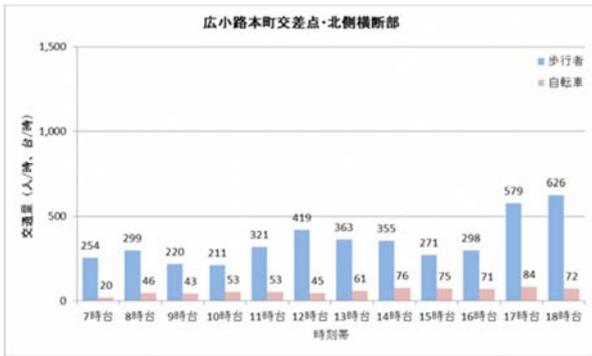
図 交通実態調査箇所

○調査結果

- ・自動車交通量調査結果



・歩行者・自転車交通量調査結果



## ◆交通シミュレーション

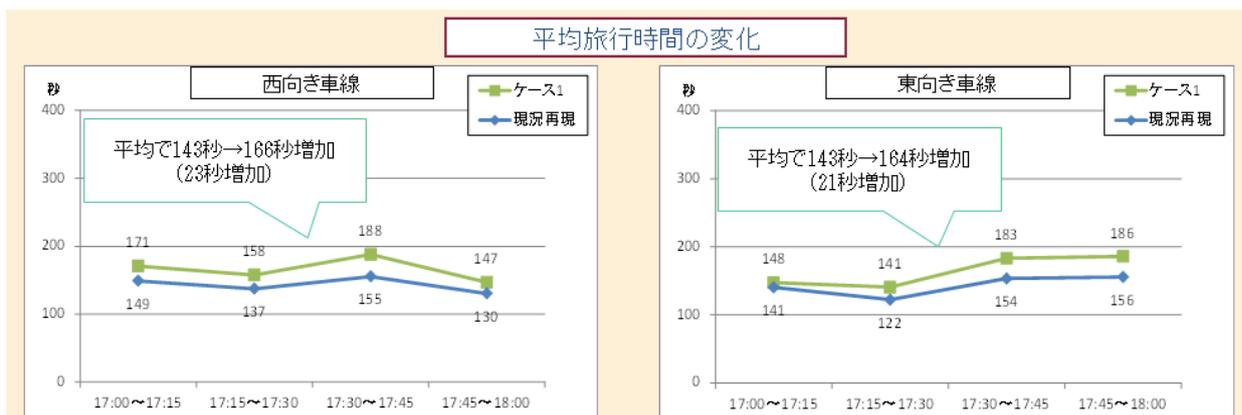
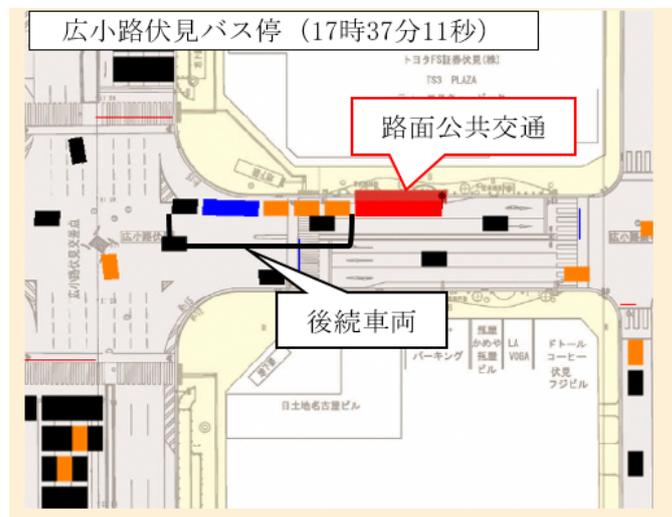
### ○条件の設定

シミュレーションの前提条件として下記の内容をインプットした。

範囲	広小路通（伏見交差点～栄交差点）
時間帯	平日 17時台
走行車両	路面公共交通：5分ごとに東行き・西行きが運行されると設定 路線バス：時刻表をもとにダイヤを設定 その他自動車：交通実態調査の結果をもとに設定
バス停における停留時間	路面公共交通：想定される乗降者数をもとに、30秒と設定 路線バス：現状のバス停車時間から、平均的な値である15秒と設定

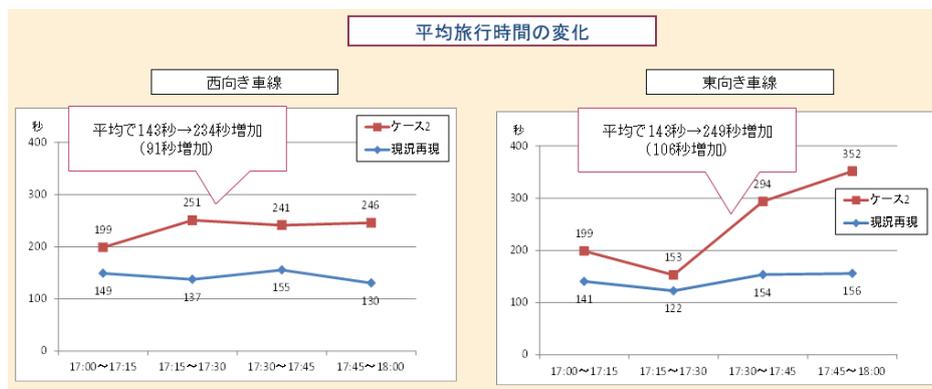
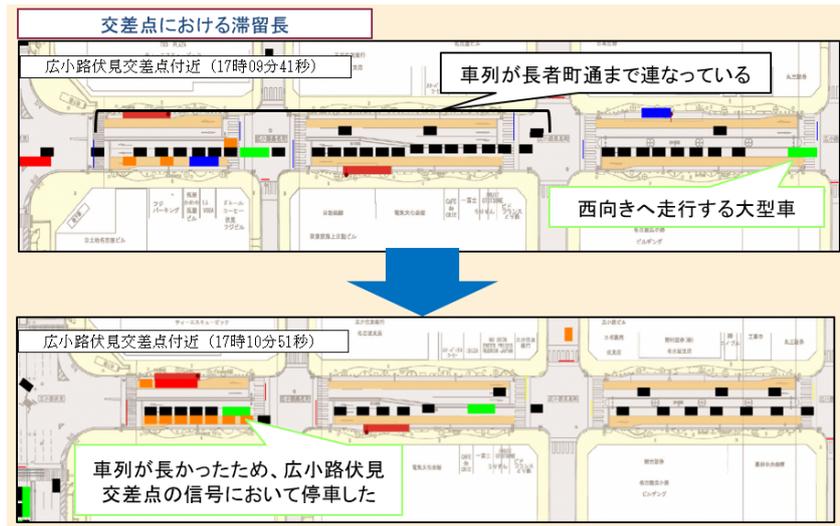
### ○検討ケース1：停留施設の形状による後続車両への影響検証

停車帯への前出しによるテラス型のバス停の設置による後続車両への影響を検証する。



- ・テラス型バス停に路面公共交通が停留した際、後続車両が横断歩道や交差点部で停車することがみられるため、歩行者や交差する自動車との接触の危険性が高まるのが課題。
- ・現況再現と比較して、旅行時間の増加は約 1.1 倍であり、テラス型バス停の導入が交通に与える影響は限定的。
- ・よって、路面公共交通・バスの後続の走行を制限する対策が必要であると考えられる。

## ○検討ケース 2：専用レーン導入に伴う交通影響検証



- ・進行方向の先詰まりによって1サイクルの青信号で交差点を通過できない状況が発生。
- ・現況再現と比較して、平均旅行時間の増加は約 1.6~1.7 倍であり、ケース 1 と比べて交通に与える影響が大きい。
- ・したがって、専用レーン導入によって直進車線が1車線のみとなることで、交通状況が悪化すると考えられるため、迂回交通を周辺道路へ誘導する必要があると考えられる。
- ・広小路通りを含む東西断面の日混雑度を試算したところ、0.822 となったため、並行路線において広小路通りの交通の一部が迂回する余裕があると考えられる。